

はじめに

当センターは、平成4年8月に保健部門の衛生研究所と環境部門の環境センターを統合した研究所として発足し、平成19年度には、県内8つの県立試験研究機関の総合見直し計画に基づく一元化により、「広島県立総合技術研究所保健環境センター」として組織再編し、現在に至っています。

広島県立総合技術研究所は、保健・環境、食品、工業（西部・東部）、農業、畜産、水産及び林業の各分野を担う8つのセンターで構成され、様々な研究を実施していますが、当センターは特に「県民の健康と快適な生活環境の確保」を使命とし、保健及び環境の分野において、危機管理事案対応・行政検査・調査研究など行政施策を支援する業務に日々取り組んでいます。

保健分野では、感染症発生動向調査や流行予測調査の病原細菌やウイルス等の検査、大規模食中毒の原因となる病原性大腸菌やノロウイルス等の検査、無承認無許可医薬品成分検出技術の開発、食品中の残留農薬や食品添加物等の化学物質、遺伝子組換え食品、麻痺性貝毒等に係る試験・研究を行っており、環境分野では、大気中の有害物質やアスベストのモニタリング調査、微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析、環境中の放射能測定、鳥インフルエンザの検査、瀬戸内海を豊かな海にしていく環境改善手法の研究等を実施しています。

最近の動きとしては、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、3年近く経過した現在も収束の目途は立っていませんが、当センターでは新型コロナウイルスの検査やウイルスゲノム解析等を通じて、収束に向けた対策に寄与しています。

また、行政部局からのニーズに基づき、建物の解体現場や災害時に倒壊した建物の建材等に含まれるアスベストの有無を迅速に判定できる技術を開発して特許を取得し、民間企業と共同で、現場で「安価・迅速・簡単」に、すべてのアスベストを検出できる『アスベスト検出キット』の製品化を実現し、本年5月から販売を開始したところですが、すでに大きな反響をいただいております。

世界的に大きな注目を浴びている地球温暖化防止や海洋ごみ対策についても、令和3年4月に、気候変動適応法に基づく地域拠点として「ひろしま気候変動適応センター」を当センター内に開設し、県内の気候変動影響や適応に係る情報収集・発信や技術的助言等を行うとともに、県内沿岸域におけるマイクロプラスチック汚染実態の把握に取り組んでいるところです。

この度、令和3年度の業務内容を年報として取りまとめました。業務の遂行に当たり、関係行政機関から御指導、御協力を賜りましたことに心からお礼を申し上げます。

今後とも、広島県職員の行動理念に掲げられた「将来にわたって『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現」に向け、県民の付託に応じていく研究を実施してまいります。

この年報により、当センターの活動・業務を御理解いただき、引き続き一層の御支援、御協力を賜りますよう、お願いいたします。

令和4年10月

広島県立総合技術研究所保健環境センター
センター長 波谷 一 宏